１　研究主題

「小中連携による活用力を育む指導方法改善の研究」

～自分の考えを確かに表現できる国語科学習を通して～

２　主題設定の理由

今日の教育に求められるものは、情報化やグローバル化の進展による急激な社会的変化の中を生きる子ども達に必要な資質・能力を育成することである。また、豊かな創造性を備え、持続可能な社会の創り手となる児童に生きる力を育てることを目指している。

学習指導要領では、「資質・能力の３つの柱」が示された。これらの３つの柱は、それぞれが確立されていくものではなく、連動し合って深化していく。

|  |
| --- |
| ・生きて働く【知識・技能】の習得  ・習得した知識・技能を活用して、課題を解決するために必要な【思考力・判断力・表現力】の育成  ・学びを人生や社会に生かそうとする【学びに向かう力・人間性】の涵養 |

本校は、「いのち輝く鹿島っ子の育成～元気で勉強　仲良く　楽しい学校～」を教育目標に、教育活動を行っている。学習の場面においては、確かな学力の定着のために、「基礎・基本的な知識・技能の習得」、「知識・理解を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等」、「関心や意欲・態度」の育成に向けて取り組んできた。

平成29年度より、自分の考えを確かに表現できる児童の育成を目指して、国語科の「書く」活動を中心に、書く力を高める有効な学習指導の在り方について研究を進めてきた。昨年度は、さらに「書くこと」の内容をしぼり、モデル文を手がかりに、学年で身につけるべき技法（本校では「わざ」と明記する）を習得させ、習得したそれらの「わざ」を使って文章を書く指導を行ってきた。加えて、テーマ日記に取り組ませたり、「かくぞうタイム」の充実を図ったりして、文章に書き慣れさせてきた。これらの実践により、自分の意見を書いてみようとする意識の変化が見られ、「わざ」を使って文章を書ける児童は増えてきた。しかし、一単元においては、習得した「わざ」を使い文章が書けるものの、他単元や他教科で自分の考えを書く活動においては、その習得した力を活用できる児童は少ない。前年度までの研究実践で、活用力の育成をねらって日常への言語活動へのつながりを図ったが、十分ではなかったと考えられる。また、対話活動（本校では「はばたきタイム」と明記する）において、自分の考えと比べて話すことができる児童は増えているが、活動を通して、友だちの良さや新たな気づきを獲得するまでには至っていない。「はばたきタイム」の目的や位置づけについての共有も不十分であったことも考えられる。したがって、これまで以上により具体的な指導方法を模索していかなければならない。

そこで、本年度は、昨年度の研究で明らかになった成果や「自分の考えを確かに表現できる」ための手立てを共有し、児童の書く力を高める有効な学習指導の在り方を探っていく。自分の思いや考えを確かに表現するために、多様な表現方法を身につけさせたり、習得と活用のつながりを意識した単元構成を工夫したりすることに焦点を置いた研究を進めていく。児童の「書いてみたい」欲求が膨らみ、「伝えたい」「聞きたい」対話活動が展開され、「書いてよかった」「書くことができた」達成感が湧き、「これからも使えそうだ」という期待や学習内容の有用性を感じることができる児童の育成を目指す。

本校が考える確かな表現力とは、習得した技法を活用し、自分自身の言語生活に学びを生かそうとする力である。これを本校の「活用力」ととらえる。言葉による見方・考え方を働かせ、習得と活用を重視した書く活動の充実を図ることで、自分の思いを確かに表現できる国語科学習が展開できると考え、本主題を設定した。

３　研究の目標

自分の考えを書く活動において、書く力を高める有効な学習指導の在り方を探ることで、自分の考えを確かに表現することのできる児童を育成する。

４　研究の仮説

自分の考えを書く活動において、以下の指導の工夫を行えば、書く力を身につけ、それを相手や目的に応じて活用し、自分の考えを確かに表現できる児童が育つであろう。

①多様な表現方法を身につけさせる指導の工夫

②習得と活用のつながりを意識した単元構成の工夫

５　研究の内容

　　（１）「わざ」を習得させるための指導

・モデル文の中の「わざ」を使った文章を書く活動の設定

　　（２）「わざ」を活用できる指導の工夫

　　　　・説明的な文章を学習材にし、「わざ」を活用した文章を書く学習過程の設定

　　（３）語彙拡充の工夫

　　　　・かくぞうタイムの見直し

　　　　・読書タイムの充実や読書活動の推進

　　（４）常時活動と日々の言語活動の充実

　　　　・「ことばブック」を活用した日記指導の工夫と充実

　　　　・他教科において「はばたきタイム」の位置づけと充実、書く活動の設定

６　研究の方法

　（１）資料及び文献による理論研究

　（２）授業研究による実践的研究と授業研究

　（３）講師を招聘しての理論研究と授業研究

　（４）児童の変容と分析

７　研究にかかる年間計画

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 月 | 日 | 曜 | 研究会 | 研　究　内　容 |
| ４ | ４ | 木 | 研究推進委員会 | 今年度の研究の概要検討 |
| ５ | 金 | 全体会 | 今年度の研究の概要説明 |
| １９ | 金 | 研究推進委員会 | 今年度の研究の概要再検討 |
| ２４ | 水 | 全体会・グループ | 研究概要説明及び全体計画提案  授業研究計画 |
| ５ | １５ | 水 | 専門部会 | 各専門部の取組計画と検討 |
| ２９ | 水 | 全体会  授業研究会 | 提案授業６年２組 |
| ６ | １２ | 水 | 全体会  授業研究会 | 特別支援学級公開授業 |
|  |  | 全体会 | 全体授業研究会指導案検討会 |
| ７ | ３ | 水 | 全体会  授業研究会 | 全体授業研究会 |
| ２２ | 月 | 全体会 | 夏季休業中の研修について |
| ２４ | 水 | 全体会 | 研修会 |
| ３１ | 水 | 全体会、専門部会 | 学力向上、かくぞうタイムの見直し |
| ８ |  |  | グループ | 指導案検討会 |
|  |  | 職員研修 | Q-Uについての研修会 |
| ２８ | 水 | 専門部会 | 各専門部の活動の見直しと改善 |
| ９ |  |  | グループ | グループ研究授業及び研究会 |
|  |  | グループ | グループ研究授業及び研究会 |
|  |  | グループ | グループ研究授業及び研究会 |
| １０ | ９ | 水 | 全体会 | 全体授業研究会指導案検討会 |
|  |  | グループ | グループ研究授業及び研究会 |
|  |  | グループ | グループ研究授業及び研究会 |
|  |  | グループ | グループ研究授業及び研究会 |
| ２３ | 水 | 全体会  授業研究会 | 全体授業研究会 |
| １１ | １３ | 水 | 全体会 | 全体授業研究会指導案検討会 |
|  |  | グループ | グループ研究授業及び研究会 |
|  |  | グループ | グループ研究授業及び研究会 |
|  |  | グループ | グループ研究授業及び研究会 |
| １２ | ４ | 水 | 全体会  授業研究会 | 全体授業研究会 |
| ２５ | 水 | 専門部会 | 各専門部の取組のまとめ作成 |
| １ | １５ | 水 | 全体会 | 研究のまとめ |
| ２９ | 水 | 全体会 | 研究紀要作成 |
| ２ |  |  | 全体会 | 学習状況調査報告・対策 |
| ２６ | 水 | 全体会 | 次年度の構想 |
| ３ |  |  | 研究推進委員会 | 次年度の構想検討 |
|  |  | 全体会 | 次年度の構想確認 |

８　研究の組織

◯授業づくり部会

　・「はばたきタイム」の目的と位置づけについて検討・改善

　・授業研究における観察シート

の見直し　　　　　　など

◯学びの集団部会

　・「かくぞうタイム」の見直しと改善

　・学級経営に生かす「Q－U」分析　　　　　　　　など

◯学びの環境部会

　・掲示物などの環境づくり

　・家庭学習の充実に向けた取組

　　　　　　　　　　　　など

